

トリノフンダマシ

伴野正志



トリノフンダマシ



シロオビトリノフンダマシ



ツシマトリノフンダマシ



サカグチトリノフンダマシ

トリノフンダマシとは、クモの仲間でコガネグモ科に属し、一般的に見られる円網を張る仲間です。日本ではトリノフンダマシ属4種、サカグチトリノフンダマシ属2種が生息しています。静岡県では、オオトリノフンダマシ、トリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシの4種が記録されています（静岡県野生生物目録2020）。サカグチトリノフンダマシとツシマトリノフンダマシは正式な採集記録がありませんが、静岡県でもまれに観察されています。

トリノフンダマシには2つの形態があります。名前のように鳥の糞に擬態するタイプ（オオトリノ、トリノ、シロオビ）と、テントウムシに擬態するタイプ（アカイロ、サカグチ、ツシマ）があります。また、シロオビとアカイロには普通型と黒色型があり別種のように見えます。

シロオビとアカイロは普通に見られ、日中はススキなどの葉の裏側にじっとしています。オオトリノとトリノは樹木やススキなどの葉にいたることが多く、前種2種が一般的によく見られ、次いで後種2種の順に見られます。

サカグチとツシマは極めてまれな種で、筆者はサカグチを2度、ツシマは1度しか観察していません。サカグチは焼津市花沢の里（2017.7.18. 撮影）と静岡市葵区賤機山（2019.9.10. 採集）で記録しています。賤機山の個体はアカメガシワの葉にいました。採集品はNPO法人静岡県自然史博ネットワークで保管されています。ツシマは静岡市葵区北の林道（2002.6.2. 撮影）で観察したのみで、両種とも観察記録も少なく生息状況や生態については情報不足です。

どちらかと言えば嫌われ者のクモ類ですが、自然界においては自然度をはかる指標種で「クモ合戦」で知られるコガネグモ（コガネグモ科）は絶滅が心配されています。

採集して記録を残すのが良いが、触るのは苦手なら、せめて写真撮影で記録を残すようにしましょう。

尚、図鑑によってはトリノフンダマシ類は「ナゲナフグモ科」に分類されていますが現在はコガネグモ科になっています。